

# 福知溪谷でヨツボシヒラタカミキリ採集

森 和 夫

家族といっしょに福知溪谷へ遊びに行った際に、ヨツボシヒラタカミキリ *Phymatodes quadrimaculatus* GRESSITT を採集したので報告する。

## 〈採集データ〉

○兵庫県宍粟郡一宮町福知溪谷

19—V—1991, 14exs., 筆者採集

当日の昼過ぎには、空に厚い雲が垂れ込め今にも雨が降りそうになってきたが、溪谷に沿った林道を少し登ってみると、少し上に、伐採されている所があり、道端に多数の枝が捨てられていた。この枝は、冬の間に切られたものらしく、冬芽のままの状態であった。樹種は、コナラのようにであった。その積み重なった枝を見ていると、小さな黒っぽい虫が、緩慢に這っていた。初めは蛾かと思ったが、よく見ると、このカミキリであった。

「長野県のカミキリムシ」(1976年、松本むしの会編)には、本種の生態が詳しく記載されている。それには「昼間は、つる、枯れ枝や葉の陰などにひそみ、夕方頃から行動が活発になる。」と記載されている。

当日の採集時刻は、午後2時過ぎであったが、厚い雲に覆われた天候のため、活動を開始していたものと考えられた。

なお、本種は、上翅に4つの白く小さい紋があるが、体長は4～6mm位の小型で暗色の余り見栄えのしないカミキリである。そのせいかどうか分らないが、手元にあったカミキリニュース(1977～81年頃)の関西の記録を捜して見たが、護摩ノ壇山での報告を見付けられただけであった。カミキリ屋さんにとっても、余り魅力のある種類でないため捜さないのかと思ったが、聞いてみると、かなり採集しにくい種類とのことであった。

(付記)ヨツボシヒラタカミキリは御承知の通り播磨産の唯一の標本によって Gressitt 博士が記載された種で(1935)、筆者も神戸市谷上で1頭採集(1958年4月20日)記録を発表させて頂いている(鳥と自然, 59号, p.14, 1990)

(高橋)